

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690200114		
法人名	株式会社 ケア21		
事業所名	グループホーム たのしい家西陣 2F		
所在地	〒602-8449 京都市上京区横大宮町219-1		
自己評価作成日	平成27年12月28日	評価結果市町村受理日	平成28年4月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigekensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2690200114-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.kaigekensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2690200114-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成28年1月28日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所理念である「自由で楽しく」を目標とし、入居者様、職員が共に楽しく生活できるホームを目指しています。施設を家庭と捉え、家庭的な雰囲気の中で楽しみながら生きがいを持って生活していただく為に、個別の関わりを重視しお一人おひとりのニーズにあったケアを提供しています。日々の業務に追われることなく、「自由で楽しく」生活できる為の業務改善に日々取り組んでいます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新規開設から1年半が経過した当該ホームは職員間の連携もよく、日々の業務は其々3ユニットのリーダーを中心に職員間で考え意見や提案を出し合い運営する等、職員が主体的に考えて業務に携われるよう職員育成に取り組んでいます。「自由で楽しく」と掲げた理念の基、職員は業務を優先することなく個々の利用者に合わせて個別の支援に努め、入居後も趣味の版画を継続したり、廊下のモップかけを日課とする利用者もあり、得意なことやできる事に携わり役割を持ってその人らしく過ごせるよう支援しています。運営推進会議では自治会関係者など地域の方の参加もあり、防災についてなど運営に活かせる率直な意見も得られており、地域の方に向けた西陣サロンを月2回開催し軽食や体操などを楽しんでもらう等地域に溶け込んだホームとなるよう取り組んでいます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自由で楽しく」を事業所理念とし、楽しくある為 に、一人ひとりの主体性を尊重し、自由な発想のもと、楽しいケアの実現に向けて取り組んでいます。	開設に向けて管理者が法人理念を踏まえて考えた独自の理念を掲げています。職員の入職時に伝えたり、ユニット会議などで個性を重視した自由な暮らしが支援できているかを確認すると共に職員が同じ方向性を共有できるよう理念の意義を伝えています。今後は職員から意見があがれば見直しを含めて検討を予定しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同敷地内にある、小規模多機能事業所と合同にて、地域交流イベントを開催しています。	自治会に加入し運営推進会議の中で地域情報してもらい、学区内の高齢者を支援する活動の会議に職員が参加しています。アコーディオンのボランティアの来訪や月2回併設施設と共に地域の方に向けた西陣サロンを開催し軽食や体操などに参加する利用者もおり交流しています。更に利用者が交流できる機会を増やせるよう検討すると共に介護相談員の受け入れを準備しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて地域との関わり方、地域の中でどのような役割をするべきかを意見交換させていただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見をもとに、サービスの向上に向けて、ユニット会議等にて共有、検討しております。	会議は利用者や家族、自治連合会理事、学区住民や老人福祉委員等の参加の下2ヶ月に1回開催し、入居者状況や活動、事故等の報告の後質疑応答を行っています。意見を受けて車の出入りをしやすく駐車場を改修したり、防災についての備えや地域の方の受け入れ等も含めて意見が出されており、本社にも報告を上げ検討する等、運営に活かせる有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高齢支援課や消防予防課等、随時相談させていただいております。	日々のケアで分からない事や疑問点があれば随時電話などで相談し現状も伝えアドバイスをしています。またサロン活動や介護相談員の受け入れ準備など関わる機会も多くあり、協力関係を築けるよう取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	人権虐待防止研修の中で、身体拘束についての理解を深めております。「身体拘束0への手引き」を実践し、不明な点は高齢支援課に相談しながらサービス向上に取り組んでおります。	年に1度身体拘束に関する法人研修に代表者が参加し、不参加の職員は資料を基に学び報告書を提出しています。言葉による行動の制止などが見られた場合は管理者が注意し、自由を謳ったホーム理念の意義を伝えています。安全面を優先しフロア出入口は施錠していますが出かけた方にはできるだけ付き添うように努めています。	

グループホーム たのしい家西陣 2F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	人権虐待防止研修を行い、虐待についての正しい知識を学び「絶対に虐待は許されない」との信念のもと業務に取り組んでおります。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内外研修にて理解を深めるようにしております。また後見人様に、随時連絡相談をさせていただいております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分に時間を設け、説明させていただいております。また、後日の質問等にも対応しております。改定等の際には、運営推進会議にて説明を行い、理解と協力をお願いしております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	随時、ご意見、ご要望を承っております。またご意見箱を設置しております。満足度調査アンケートを実施しております。この3つを柱とし、推進会議等で意見を交換しながら、運営に反映させております。	年に1度法人による満足度調査が行われ、評価の低い項目については職員に注意喚起したり、職員の言葉遣いの改善などに取り組んでいます。面会時には利用者の様子を伝える中で意見が無いかを聞き、出された意見を受けて下肢筋力が低下しないよう運動の日を数日設ける等、意見を反映した取り組みに繋がっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善提案書を活用しております。各ユニットリーダーが中心となり、月1回の会議にて意見交換しております。	日々の業務は各ユニット毎にリーダーを中心に職員と主体的に考えて運営されており、月に1度のユニット会議では積極的に意見や提案が出され話し合いの上決められています。意見を受けて朝食にパンの日を取り入れています。また職員は業務改善提案書を用いて法人に直接意見や提案を出すこともできます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	誰伸び制度(人事考課)にて努力、実績を評価しております。事業所においては、ワークライフバランスを重視し、心身共に健康で働ける職場環境創りに取り組んでおります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「入社時研修、部門別研修」にて一人ひとりのスキルUPに取り組んでおります。また「段位認定制度」にて今後のキャリアUPにも取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内での交流が主となっている現状がありますが、今後は外部との積極的な交流にも取り組んでいきたいと思ひます。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテークで得た情報を交えながら、アセスメントにてご本人のニーズを捉え、聞き役に徹する事で信頼関係が築けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテークにて、ご本人・ご家族の状況や立場を理解し、受容と共感を行いながら、一緒に課題解決に取り組むようにしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	既往歴や介護力等を勘案し在宅支援を含めた提案を行っております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同作業やレクリエーション、座席の配置等を考慮し、より良い関係性の構築に努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	随時、ご家族に相談をしながらサービスに取り組んでおります。急な外出や時間外の外出等にも対応し、家族と過ごされる時間を大事にしております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外泊や外出、電話や手紙等の支援をおこなっております。	家族と共に孫や兄弟、友人などの来訪があり居室に案内し椅子の用意やお茶を出し、ゆっくりできるよう配慮しています。年賀状を書く方の投函等を支援したり、ドライブに出かけた際に懐かしい場所を通ることもあります。また家族の協力を得て自宅に戻る方や馴染のすし屋に出かけたり、冠婚葬祭に行かれる方もおり、連絡調整や身支度などを支援し外出がスムーズにいくよう配慮しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いのより良い関係構築の為に、座席等を考慮し、ご利用者同士の関係性を支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や支援を行っております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でのコミュニケーションを大切に些細の事でも情報共有に努めています。また、ご家族様に相談しながら、本人の意向の把握に努めております。	入居に向けては自宅や入所先等を訪問して本人や家族と面談し、暮らし方の希望や生活歴、趣味等を聞き、担当していたケアマネジャーからもケアの参考になる情報やアドバイスを得ながら意向の把握に努めています。入居後は本人の言葉を記録し、把握の困難な場合は改めて家族に聞いたり、記録などを参考に本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテーク アセスメント、また、これまでのサービス事業者から情報を収集し、経過把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護職、看護職の合同会議にて現状把握に努めています。また必要時には担当医にも相談させていただいております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各フロアの計画作成担当者が中心となり、他職種間での意見を調整し、チームとして質の高い計画書作りに努めています。	入居時は本人や家族の意向を基に暫定の介護計画を作成の上本人の生活を観察し、1ヶ月から3ヶ月で見直しています。その後は利用者毎に3ヶ月から1年の間隔でモニタリング及び再アセスメントを行い実施状況の確認や利用者の現状を把握し、事前に聞いた家族や往診医の意見を反映し見直しています。短期間でのモニタリングの実施に向け体制の整備や職員育成に取り組んでいます。	

グループホーム たのしい家西陣 2F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細な事でも記録に落とし込み、情報を共有する事で、多角的な視点からの気づきや工夫を介護計画に活かせるよう、努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々で発生する多様なニーズに対応する為に、本人本位を常に考え、協力機関とも連携をしながら、より柔軟に取り組んでおります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等で地域資源の把握に努め、積極的な資源活用に取り組んでいきます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医との連携状況を説明しています。月2回の定期往診、24時間の連絡体制等、入院対応等、バックアップが充実しております。	かかりつけ医を継続している方や専門医への受診は主に家族が付き添い、状況により職員の看護師が同行しています。家族が受診に付き添う時は利用者の状態は口頭でやり取りし共有しています。また24時間対応が可能な協力医の往診を月2回受け、週に1度の訪問歯科や口腔ケアは、選択してもらい必要な方が受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が配置されている為、その都度看護師に相談できる体制が出来ております。必要時には受診や往診等、適切な対応に努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携室やご家族、また、直接病棟に行つての情報収集等、現状把握に努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重要事項の説明として重度化指針を説明をしております。終末期には主治医を交えたカンファレンスを開催し、ご家族の意向を最大限考慮した対応を行います。	終末期の対応については入居時に重度化の指針に沿って説明を行い、延命を希望しない事を伝える家族もいます。開設から日も浅く支援の経験はありませんが、家族や医師、看護師を交えて話し合い、意向を聞きながら他施設へ繋げた事例があります。今後の支援に向けては医師などから予想できる状況や対応について説明を受けながら支援したいと考えています。	

グループホーム たのしい家西陣 2F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網や事故時のフローチャートを作成し、事故に備えております。初期対応や応急対応については看護師が中心となり実践力の向上に努めております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画の作成、年2回の消防訓練(消防署、設備会社立ち合い)を行っております。	年に2回其々昼夜を想定し、消防署員や設備会社の職員の立ち合いの基、利用者と共に通報や避難誘導、初期消火や設備の点検などの訓練を実施しています。運営推進会議では地震の訓練の必要性や地域の方の受け入れなどについて話し合われています。災害に備え数日分の水や食料を準備しています。	地域の方の協力が得られるよう訓練時には近隣の方へ案内したり、地域の訓練に参加されてはいかがでしょうか。また運営推進会議で地域との協力関係作りについて話し合われていますので、具体的な取り組みに繋がることを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇に対しては特に重要と捉えています。相手を説得するのではなく、受容と共感を持って接するように努めております。	接遇マナーに関する法人研修を受講した職員がホームで伝達すると共に管理者は会議時などに個人を尊重することの大切さを職員に伝えていきます。日常的には利用者は苗字で呼ぶことを基本に家族などの第三者が聞いても不快感を与えないような対応を心がけています。特に排泄や入浴介助の際はカーテンやバスタオルを用いて本人の羞恥心に配慮をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「自由で楽しく」の事業所理念のもとに自己決定を尊重し、日常生活の中でのご本人の希望要望を尊重しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「自由で楽しく」の事業所理念のもとに自己決定を尊重し、日常生活の中でのご本人の希望要望を尊重しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問美容の他、レクリエーションとしてのマニキュアや外出前の化粧等の支援を行っております。		

グループホーム たのしい家西陣 2F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々のニーズに応じた支援を行っております。 週に1回程度はお弁当やお寿司等を取り寄せ、楽しい時間を過ごしていただいております。	季節感にも配慮した業者の献立に沿って毎日食材が届き、利用者は片付けや洗い物、味見などのできる事に携わっています。おせち料理を取り寄せたり、レストランや回転寿司などの外食の他、ホットケーキなどのおやつ作りを楽しんでもらっています。朝食は利用者と共に職員も食べていますが昼食や夕食時はそばで見守っています。	屋食や夕食も食事の時間が楽しくなるよう、検食を兼ねて一人でも同じものを一緒に食べる機会を検討されてははいかがでしょうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量 水分摂取量を記録しております。 水分量が確保できるように、ジュースやコーヒー 紅茶等好みに合わせた飲み物の提供をしております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを習慣としています。また週1回の訪問歯科による口腔ケアを実施しております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をもとに、個々の排泄パターンの把握に努めています。	排泄の記録を参考に個々の排泄リズムを把握し、一人ひとりに合わせて声掛けやトイレに案内し失敗に繋がらないように見極めながら支援をしています。本人に合った支援の方法や業者の情報も参加に排泄用品を選択する中で汚染が減り皮膚の状態が改善した方や排泄用品が不要になる方もおり、失敗なく自立に向かえるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食品や乳製品の提供を行い、まずは下剤を使わない便秘予防に取り組んでおります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴予定表はなく、週2回以上を基本とした本人の希望にそった入浴支援を心がけております。	入浴は日中の時間帯に間隔の空いている方から声をかけ、できるだけ希望に沿って入れるよう支援しています。一人ずつ湯を入れ替え、入浴好きな方は回数を増やす方もいます。保湿効果のある入浴剤を使用していますが、足元が見えるような濁りのないものを選び不安なく入れるよう配慮しています。また入浴を拒む方には無理のない声掛けや毎日誘う等工夫し、難しい場合は翌日にするなど柔軟に対応しています。	



グループホーム たのしい家西陣 2F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的な起床、消灯時間はありますが、状態に応じた柔軟な対応を心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が中心となり、薬剤を管理しております。処方変更や、副作用等は連絡ノートにて情報の共有をおこなっております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩、買い物、ドライブ、リハビリ等、一人ひとりの選択による支援を行っております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望に応じての外出支援を行っております。またご家族様の協力により、定期的に出出される方もおります。	ほぼ毎日希望に沿って散歩やドライブに出かけており、全利用者が週に数回は外出できるよう取り組み、天気の良い時はベランダで外気浴をすることもあります。季節に合わせて近くにある晴明神社へ初詣に行ったり、桜や紅葉、大文字、鴨川へ散歩に行くなど出かける機会を作っています。また希望を聞きながら近隣のコンビニやドラッグストアなどに個別に買い物に出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望、ご家族の希望を勘案してお金を管理していただく事もあります。また、一緒に買い物に行き、本人の選択により商品を購入していただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の持ち込み等、制限をかけておりません。持ってる方は自ら電話ができる環境があります。手紙も一緒にポストに投函できるように支援しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	飾り物や色あい等、落ち着いた空間になるように配慮しております。外出レクリエーションの写真や職員が描いた似顔絵等を飾り、楽しくも、落ち着きのある空間づくりに努めております。	共用空間は利用者と共に季節毎に作った作品や行事の写真、職員が描いた利用者の似顔絵等を飾ったり、玄関先でアロマをたく等落ち着いた雰囲気となるよう工夫しています。利用者が混乱しないよう居室やトイレを分りやすく表示したり、車椅子の方にも使いやすい高さの洗面台も設置しています。またゆっくりできる場所にソファを置いたり、テーブルの座席は利用者の関係を見ながら随時変更し、居心地よく過ごせるよう配慮しています。	

グループホーム たのしい家西陣 2F

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを設置し、いつでも好きな時にだれでも座れるようにしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、本人の使い慣れた家具や、小物、洋服などを持参していただき、居心地の良い環境づくりに配慮しております。	入居時には本人の馴染みのある物を揃えてもらうよう家族に伝えています。利用者は筆筒や小振りの冷蔵庫、座り慣れた椅子などを持参し家族と相談しながら過ごしやすいよう配置しています。また大切な仏壇や家族の写真、版画などの趣味の物やラジカセで音楽を聴く方もおり、その人らしく安心できる居室となるよう支援しています。掃除や整理整頓などは関われる方と一緒にしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	視覚に訴えかける事で、トイレの位置や居室の位置等、本人の自立した生活を支援しております。		